

# ポスト3.11 絵本の今とこれから

## 絵本の新しい地平線を求めて

### 第1部 基調講演「絵本の多様性」 松本 猛

近年、絵本のテーマはあらゆる分野に広がっています。「生き方や思想」「戦争と平和」「人権・差別」「ジェンダー」「多文化共生」「老いと死」「自然と地球環境」「東日本大震災・原発事故」など、1960年代には考えられなかった社会事象が取り上げられるようになり、またアートとしての絵本を追求した作品も目立つようになりました。その理由は何なのか、具体的作品を取り上げながら、これからの絵本を考えます。



『絵本とは何か 起源から表現の可能性まで』  
(岩波書店/2025.2)

松本猛（まつもと たけし） <http://www.takeshi-matsumoto.jp/>

1951年生まれ。美術・絵本評論家、作家、横浜美術大学客員教授、ちひろ美術館常任顧問。1977年にちひろ美術館・東京、97年に安曇野ちひろ美術館を設立。同館館長、長野県立美術館館長、絵本学会会長を歴任。著書『いわさきちひろ』（講談社）『ちひろ美術館の窓から』（かもがわ出版）『安曇野ちひろ美術館をつくったわけ』（新日本出版社）、絵本に『白い馬』（講談社）『ふくしまからきた子』（岩崎書店）など。



『ちひろ美術館の窓から  
母いわさきちひろ、  
東山魁夷、絵本画家を語る』  
(かもがわ出版)

### 第2部 シンポジウム「絵本の今とこれから」

内田麟太郎・武田美穂・沖本敦子・松本 猛 司会 / 野上 暁（評論家）

詩人であると同時に、絵本ライターとして絵とテキスト関係を追求する内田麟太郎さん、「ますだくん」シリーズをはじめ絵本に映像表現を取り込み、絵本表現の可能性を広げてきた絵本作家の武田美穂さん、『りんごかもしれない』（ヨシタケシンスケ）『たまごのはなし』（しおたにまみこ）など、絵本の概念を変える絵本の編集を担当した沖本敦子さんに新しい絵本の世界を縦横に語ってもらいます。



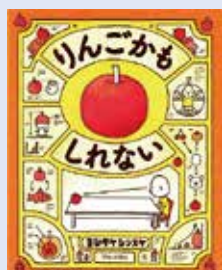
『がたごと がたごと』  
(絵 西村繁男 / 童心社)

内田麟太郎（うちだ りんたろう）

絵詞作家・詩人。1941年・大牟田市生まれ。絵本に『さかさまライオン』（絵 長新太 / 童心社）『うそつきのつき』（絵 荒井良二 / 文溪堂）『ともだちや』（絵 降矢奈々 / 偕成社）『ひとのなみだ』など。詩集に『たぬきのたまご』（銀の鈴社）『ぼくたちはなく』（PHP 研究所）『詩303P』（303BOOKS）など。エッセイに『絵本があったよかったな』（架空社）など。茶碗の生まれ代わり。



『はるが もぞもぞ』  
(銅版画 南塚直子 / ポプラ社)



『りんごかもしれない』  
(ヨシタケシンスケ / ブロンズ新社)

沖本敦子（おきもと あつこ）

子どもの本の編集者。1978年生まれ。「だるまさん」シリーズ（かがくいひろし）「しごとば」シリーズ（鈴木のりたけ）『りんごかもしれない』（ヨシタケシンスケ）『たまごのはなし』（しおたにまみこ）など数多くの絵本の編集を手がける。文章を手がけた作品に『ねむねむ こうさぎ』（絵 森山標子）『おふろ』（絵 いちろう）（いずれもブロンズ新社）など。1児の母。



『たまごのはなし』  
(しおたにまみこ / ブロンズ新社)



『となりのせきのますだくん』  
(ポプラ社)

武田 美穂（たけだ みほ）

1959年、東京都生まれ。1992年に『となりのせきのますだくん』で絵本にっぽん賞、講談社出版文化賞・絵本賞、2001年に『すみっこのおばけ』で日本絵本賞読者賞、けんぶち絵本の里大賞、2007年には『おかあさん、げんきですか。』（文・後藤竜二）で日本絵本賞大賞を受賞（いずれもポプラ社）。そのほか『パパ・カレー』（ほるぶ出版）『おさるのこうすけ』（童心社）『えほん宮沢賢治ワールド』シリーズ（理論社）など。



『やくそく ぼくらはぜったい  
戦争しない』  
(著 那須正幹 / ほるぶ出版)